



市民の誓い 私たちは 水を生かし 緑を広げ 安全に努め 心を育て 助け合います



大垣市マスコットキャラクター「おがっきい・おあむちゃん」

残雪の城下町 笑顔で快走



子どもたちの元気なスタート



雪残る駅通りを駆けるランナー



仲間と並んで笑顔でゴール



賞状を手にする入賞者

新春マラソン 3,800人が走り初め

1月3日、中心市街地一帯を舞台に、「城下町おおがき新春マラソン2015」が開かれました。

今年で7回目となるこのマラソンは、大垣市商店街振興組合連合会や大垣市陸上競技協会などで組織する実行委員会（田中良幸委員長）が主催。市民の皆さんの健康増進や中心市街地の「にぎわい創出」を目的に、毎年行われています。回を重ねるごとに認知度が高まり、県外からのエントリーも増え、今年では過去最多となる約3,800人のランナーが参加しました。

当日は、大垣城ホール前での開会式の後、午前9時15分から、小・中学生の部（3km）、一般・高校の部（10km）、ウォーキング・ジョギングの部（3km）の3部門に分かれ順次スタート。奥の細道むすびの地記念館

付近や市役所前、大垣駅通りなどを駆け抜け、ゴールの新大橋を目指しました。沿道では、ゲストランナーの千葉真子さんと湯田友美さん＝写真：下＝が参加者を激励したほか、西濃運輸硬式野球部や大垣ミナモソフトボールクラブの選手らも駆けつけ、大勢の観客とともに熱い声援を送りました。

ゴール付近では、商店街の皆さんにより白玉ぜんざいやみそ汁などの振る舞いも行われ＝写真：上＝、ランナーの身も心も温めました。

路面に雪が残るコンディションでしたが、参加者はタイムを競う、仲間と走るなど、それぞれのペースで走り初めを楽しみました。



ゴール付近では、商店街の皆さんにより白玉ぜんざいやみそ汁などの振る舞いも行われ＝写真：上＝、ランナーの身も心も温めました。

路面に雪が残るコンディションでしたが、参加者はタイムを競う、仲間と走るなど、それぞれのペースで走り初めを楽しみました。

広報紙の表紙を一部リニューアル

1月15日号から、本紙①面の左下に、主な掲載情報をまとめた目次を設けました。また、毎月1日号に掲載の「人口と世帯数」は、次号から①面の右上（おがっきい・おあむちゃん的位置）へと移動します。

1月15日号 主な内容

- ▶ 所得税や市・県民税の申告受付、証明書のコンビニ交付など … 2～3P
- ▶ 新景観遺産の指定、家庭用燃料電池・蓄電池設置に補助など … 4～5P
- ▶ 16万市民投句、子育て・講座・催しなど … 6～7P
- ▶ 消防出初表彰、第6回街のアーティストフェスタ、市民伝言板など … 8～9P
- ▶ 健康ガイド … 10～11P
- ▶ スイトピア子どもまつり … 12P

私は、本市にさらに多くの方に住んでもらうことを願っています。そして子どもたちが増え、皆が笑顔で行き交う活気あふれるまちにしていきたいと思っています。



平成28年9月末完成予定の大垣駅南街区再開発ビル

駅周辺に居住することは、名古屋などへのスムーズな通勤が可能なほか、周りには病院や学校、商業施設なども多く便利です。最近では、錦町のマンションが完売、駅北の分譲宅地も売れ行き好調と、駅周辺の居住人口が増加しつつあります。市も、まちなか住宅取得支援事業を展開し、バックアップしています。

そして今年、大垣駅南街区市街地再開発事業の核となる再開発ビルの本体工事が始まります。中でも17階建ての北棟は、1～3階が子育て支援施設や店舗など、4階以上がマンションとなっております。2月上旬から販売開始される予定です。駅に近く、子育てしやすい環境となつていくことから、今のところ引き合いは好調と伺っています。

「まちなか居住人口の増加に向け」が全国的に進み、本市においても中心市街地のにぎわいづくりが大きな課題となっております。そのため、市は、平成21年に「中心市街地活性化基本計画」を策定。関係者の皆さまと連携し、奥の細道むすびの地周辺整備事業や元氣ハツラツ市事業など、さまざまな事業を進め、交流人口の増加や、にぎわいの創出に努めてきました。先に行われた新春マラソンもその一つです。

まちなか居住人口の増加に向け



大垣市長 小川 敏

市長のながさきメール